# 見てみよう!歴史災害記録と旬のあいち

JANUARY 2018 vol.45

16 23 24 25 28 29 30 31

れんこうじ 蓮光寺

所在地:一宮市三条郷内

交 通:名鉄尾西線「二子」駅 北約 2km

一宮市の旧起町は、かつて美濃路の宿場町として栄えた 起村(2015.7月号参照)などからなる町で、昭和30年に 合併で尾西市となり、現在は一宮市の西部に含まれていま す。明治 24 (1891) 年の濃尾地震では、この旧起町でも 「岐阜・笠松・竹ヶ鼻より連絡する最も峻烈なる中心路線に 当ったので、全家屋悉く倒壊し、一望遮ぎるものなく、そ

の惨状実に言語に絶した(起 町史)」被害となっており、 町内の4村では、180名の 死者が発生し、総戸数の約9 割にあたる 1,993 戸が全潰 となっています。このうち三 条村では、 苅安賀新田(大 平・新開)で18名、籠屋で 8名、板倉で14名、宮新田 で 6 名、総計 46 名の方が亡 起町 4 村の被害(上、明治地震詳報)

くなっています。

	総人口	死者数	総戸数	居宅全壊
起村	1,614	38	405	*450
小信中島村	2,122	37	459	404
三条村	2,377	46	463	385
大徳村	4,619	59	902	754
計	10,732	180	2,229	1,993

※町史では「総戸数より多いのは誤植か」とされており、合併で資料が亡失したことは遺憾に堪えない、とも述べられている。

三条村大字	居宅 全壊	居宅 半壊	死者	負傷者
苅安賀新田	171	7	18	45
籠屋	85	11	8	12
板倉	126	10	14	13
宮新田	52	1	6	6
計	434	29	46	76

三条村の被害(下、三条村役場資料) (いずれも起町史より)

旧三条村の蓮光寺には、三条村で亡くなられた方々を慰 霊した震災死亡碑があります。碑は名古屋市の伊藤新五郎 氏の厚意により建てられたもので、建立は震災当日となっ ており、碑表には震災死亡碑の題字と三条村で亡くなられ た方の戒名が刻まれています。(碑銘では、板倉 14 名、苅 安賀新田12名、大平4名、籠屋8名、宮新田5名)

ところで、起町史には、震災後の様子として次の記述が あります。「震災の報帝都に達するや、醫科(医科)大学 教師ドクトル、ユリユース、スクリバ氏は、文部省及帝国 大学の命を受け、醫学士四名・醫科大学第四学年生 13 名・ 使僕2名を伴なひ、治療器械及繃帯(包帯)諸品を準備し て出発し、31 日着縣、(中略) 11 月 4 日治療を開始しスク リバ氏は右三箇所(常念寺、黒田、起大名神社)を毎日巡 回した。」当時の医科大学の教師や、医学士、医科大学生 らが、負傷者の応援のために当地に入り治療にあたったこ とがわかりますが、このときの医科大学教師スクリバ氏の 談として興味深い内容が残されています。「当時スクリバ氏 の談に、其壮年頃歐州中原の戦乱相継ぎ、就中普佛戦争の 際の如きは、一戦にして両軍の負傷 14 万人の多きに及ん だが、民家は皆破壊を免れたので、傷者の病室には更に不 便を感じなかったが、今回は全村の家屋悉く潰れて、病者 を安んずる方法に甚だ苦心した。斯かる困難は未だ嘗て遭 遇しないものであると語った。」

起町では、家屋がことごとく潰れたことにより、多くの 死者が発生していますが、スクリバ氏の発言からは、その

後の対応においても苦慮したことがわ かります。建物の耐震化は、倒壊によ り人命が失われることを防ぐことはも ちろんですが、地震のあとの対応を考 える上でも、いかに重要であるかを物 語っていると言えます。





災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を 繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していだ だくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ。身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 蓮光寺の周辺には…

## ● 宝光寺(震災紀念碑)

所在地:一宮市萩原町萩原

交 通:名鉄尾西線「萩原」駅 北西約 800m

明治 24 年 (1891) 濃尾地震の際に、当時の萩原村では 60 人以上の死者が出て、約 8



割の建物が全壊・半壊しています。碑の内容からすると、この碑は、当地でも激震があったことを後世に伝えるために建てられたものと思われます。

#### ● 地蔵寺墓地横(震災亡霊菩薩塔)

所在地:一宮市本町通

交 通:名鉄本線「名鉄一宮」駅 南東 約 700m



明治 24 年(1891)濃尾地震の際に、 地蔵寺の建物はことごとく倒壊したとさ

れています。また、 寺の墓地横には濃尾 地震による死者を供 養するため建てられ た「震災亡霊菩薩塔」 があります。



♦ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html) をご覧ください。

## ★どんど焼き

一宮市の真清田神社は、平安時代から人々の崇敬を集めてきた神社で、国司が国の神社を参拝して回るときに最初に訪れる(尾張の国の)「一の宮」であったため、その門前町が「いちのみや」と呼ばれるようになりました(2017.3月号参照)。地震の被害の記録としては、天正13(1586)年の天正地震では楼門、廻廊、社殿等が全壊・半壊、濃尾地震では瓦葺の拝殿や勅使殿などが壊滅状態となった記録が残されています。

小正月(1月15日)には真清田神社でどんど焼きが行われます。どんど焼きは、正月の松飾り・注連縄などを持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やす、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事で、真清田神社では、



Aichi Now HP より

古いお札を収めると、おさがりの餅がもらえ、細い竹ざおの先につけたかごにその餅を入れ、火に近づけて焼くことができます。ここで焼いた餅を食べると、夏病みしない、虫歯にならないという言い伝えがあります。

#### -1 月のあいちの花

があります。

平成 30 年 1 月のあい ちの花はプリムラです。

プリムラは、寒さに強 く育てやすい花で、晩秋



から初夏まで咲き続け、観賞用に多くの品種

最も一般的なものはポリアンサで、地面の近くで大きな花を咲かせます。ポリアンサを小型化したジュリアン、茎が高く伸びる大輪咲きのオブコニカ、小輪多花性で花茎に段状に花をつけるマラコイデスなどが有名です。

プリムラの名前は、早春、他の花に先駆けて咲くことから、「primos (最初)」が語源となっています。

#### ●ブレイクタイム●-

#### ♪ 一宮モーニング

一宮のモーニングは、繊維業が全盛だった昭和 30 年代に、昼夜を問わず頻繁に喫茶店を訪れていた「はたや」さんに、マスターが朝のサービスとして、コーヒーにゆで卵とピーナッツを付けたのがはじまりで、それ以来、モーニングの文化が定着しています。

一宮市では、モーニングの文化を盛り上げるため、一宮モーニングプロジェクトが行われています。プロジェクトでは、モーニングマップの作成や、モーニングスタンプラリー、モーニング 博覧会の実施のほか、レンタカー会社とコラボしたキャンペーンも行われています。



- ◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、 gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。
- ▶県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災 / 減災サイト』(http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html) をぜひご覧ください。

